

【必答】現代文 ※この問題は受験者全員が解答すること

(一) 次の文章を読んで、後の問い(問一～十二)に答えよ。

私たち人間は誰でも、この世に生きていくとき、必ずなにかをつくり出し、それによって自己を表現している。なにかをつくるというと、ふつう手仕事や、でなければ工場労働の機械をつかつての生産を、また自己を表現するというと、芸術家の仕事や、でなければ趣味としてやっている俳句や短歌や陶芸など、そういったものだけを、ひとは考えがちである。

①、ここでのいうのは、もっと広い意味でつくり出すことであり、表現である。広い意味でいえば、およそ私たちは、なにもつくらず、なにも表現せずに生きていくことはありえないし、生きていくことはできない。

②、極端な話だが、ここに、来る日も来る日も一日中自分の部屋に閉じこもって、誰にも会わず、なにもしない人がいたとする。自分でこれに似たようなことをしたことのある人たちもいるだろう。

③、こういう人を身近に知っている人たちも少なくないだろう。この人は一見したところなにもつくらず、なにも表現していないように見える。たしかに積極的にはなにもつくらず、なにも表現していないかも知れない。そういう人間を指して「無為徒食」という言い方もある。漱石そうせきの小説のなかに出てくる「高等遊民」というのも、高等こうとうという形容詞こそ付いているが、似たような人を指している。

だが果たして、そういう人は、なにもつくらず、なにも表現していないだろうか。必ずしもそうとは言えない。なんとすれば、そのような人たちのうちのもっともひどい人の場合を考えても、その人がそのような振舞ふるまうとき、そこに家族やまわりの人々との間にやはり一種独特の関係を「つくり出して」いるからである。また、その関係をとおして「変わり者」あるいは「人間嫌い」として自分を表現しているからである。どうしてもこのようなことになるのだろうか。思うにそれは、私たち人間の一人ひとりが、この世に生きていくかぎり、すでになんらかの人間関係、社会関係の網のなかで、同じことだが或あ一定の意味の場④文化のなかで、生きているからであろう。

【A】

私たちの一人ひとりとは、ただ個人として在るのではないばかりか、単に集団の一員として在るのでもなくて、そのような意味を持つた関係のなかにある、とこそ言わなければならない。だからこそ、自分では社会や政治にまったく関心を持たなくとも、私たちはそれらと無関係でいることはありえないことにもなるのである。むしろそれは、物理的、自然的な関係ではなくて、意味的、価値的な関係である。そうした関係のなかでは、すべての態度、なにもしないことでさえ、いわば一つの行為になり、なんらかの意味を帯びてくる。

そのことをきわめて鋭くとらえ、表あらわわしているのは、現代芸術である。たとえば或る画家は、白い便器になにも加工せずにそのまま「泉」と名づけて、展覧会に出品しようとした(マルセル・デュシャン注1)。また或る作曲家は、ピアニストに対して演奏会場のステージのピアノの前におもむろに腰を掛けるなり四十三秒間なにもしないままであるように指示し、その間にきこえてくる自然音に聴衆の耳を傾けさせて、それを「四分三十三秒」と名づけた(ジョン・ケージ注2)。一風変わったこの二つの例が現代芸術にとって画期的な「作品」であるとされるのも、そこにあるのが単なる奇抜な思いつきではなくて、それをこえたものだからであろう。展覧会場や演奏会場という特定の意味場そのものを生かして、つくることや表現すること

のなんたるかを、根本から問いなおしたものだからであろう。

【 B 】

このように私たち人間にとって、なにかをつくり出したり表現したりすることは、ア。それは、生きるということとほとんど同義語でさえある。

ところで私たちは、そのようにして生き、なにかをつくり出し、表現していくとき、否応なしに、日常生活のなかで自己をとりまくものについて、自分の感じたこと、知覚したこと、思ったことにのっとり、それらを出発点としないわけにはいかない。もつとも能動的な制作や創造や表現についても、やはりそうである。もとより複雑化した世界に積極的に対処して活動するためには、いろいろとそれなりに立ち入った知識や理論や技法が必要とされるだろう。けれどもそれらの知識や理論や技法は、日常生活のなかで何気なしに自分が感じ、知覚し、思ったことと結びつくことなしには、生かされることができない。たとえ、それ自身としてどんなにすぐれた知識や理論や技法であっても、その結びつきを欠くときには現実と十分に噛み合わず、宙に浮いてしまうことになるだろう。それらが私たちにとって内面化されず、私たち自身のものにならないからである。⁵知恵の喪失といわれることもそこから出てくる。

【 C 】

にもかかわらず、通常私たちは、それらを日常の経験とはまったく別個の、独立したものとして考え、とらえている。どうしてであろうか。それはなによりも、日常経験の上に立つ知が〈常識〉として固定的にとらえられたからであろう。私たち一人ひとりの間ではイは一般に共通性と安定性を持ったものとしてあるが、そのような共通性と安定性の上に立った知としての常識である。そのウは、概して一つの文化、一つの社会のうちのものである。けれども、ともかくこうして、私たちの間の共通の日常経験の上に立つ知が、〈常識〉として固定的にとらえられたのである。そして一方で、常識が常識としてこのように考えられるとき、他方で、立ち入った専門的な知識や理論や技法も、それと独立した別個のものとして考えられることになるのである。たしかに高度の知識や理論や技法は、日常経験の知をこえ、また限られた社会や文化をこえて広い範囲に有効性を持ちうるだろう。しかしそれは、そうした知識や理論や技法が、さまざまなエのうちで人々の日常経験に広く開かれ、それらと結びつくからである。また逆に日常経験の知としての常識も、本来はそうしたオに向かって開かれていくものである。

【 D 】

常識とは、私たちの間の共通の日常経験の上に立った知であるとともに、一定の社会や文化という共通の意味場のなかでの、わかりきったもの、自明になったものを含んだ知である。ところが、このわかりきったもの、自明になったものは、そのなんたるかが、なかなか気づきにくい。常識の持つ曖昧さ、わかりにくさもそこにある。その点で、さきにふれたデュシャンとケージの企てが、〈芸術作品〉の通念（約束事）の底を突き破り、そこに芸術の分野で、日常化された経験の底にある自明性をはつきり露呈させたことは、甚だ興味深い。この場合、日常経験の自明性が前提とされ、信じられていなければ、その二つの企ては共にもとと根拠を失い、〈作品〉として成り立たないだろう。しかしながら二人の作品の場合、そのような日常経験の自明性は、もはや単に信じられているのではない。信じられていると同時に、実は宙吊りにされ、問われているのである。⁷

【 E 】

⁸ここに芸術の領域について見られたのと同じことは、知識や理論についても見られるだろう。すなわち現在、既成の知識や理論に対して、問いなおが必要とされているのは、ただ日常経験の安定し固定した自明

性の上のにつかつたものとしてだけではない。さらにそのような自明性の根柢こんていもひつくるめたものとしてである。知識や理論をただそのものとしてだけではなくて、それらを支える感覚や知覚や無意識の思い込みをも含んだものとして、問いなおすことが要求されている。社会学や民俗学をはじめとする社会・人文の諸学問のなかに、できるかぎりさまざまな先入主を排して、ありのままに、また多角的なものごとを見ようとする考察方法、つまり現象げんしょう学的な考察が自覚的に導入されてきているのも、そのあらわれの一つにほかならない。この場合になによりも問題になるのも、私たちの見慣れた風景にかかわる日常経験である。この日常経験というのは、祭りなどの非日常性と必ずしも対立するものではなく、ときにはそれらも含んだ生活世界の経験のことである。

(中村雄二郎『共通感覚論』による)

- (注) 1 マルセル・デュシャン―フランスの芸術家。「現代アートの父」と呼ばれる。
2 ジョン・ケージーアメリカの作曲家。

問一 空欄①～④に入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～8のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

ただし、同じ番号を二度以上使用してはならない。解答番号は①＝、②＝、③＝、④＝。

- 1 だから
- 2 つまり
- 3 たとえば
- 4 したがって
- 5 また
- 6 けれども
- 7 ところで
- 8 そこで

問二 傍線部1「無為徒食」の本文中での意味はどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は。

- 1 働かず、ぶらぶらして暮らすこと。
- 2 食べることを以外に目的を持ってないでいること。
- 3 寝食を忘れて仕事に没頭すること。
- 4 なすべきことが見つからず、むなしいこと。
- 5 なりゆきに流されるままになること。

問三

傍線部2「漱石」とあるが、次の文章は夏目漱石のどの作品の冒頭部か。最も適当なものを、次の1

～5のうちから一つ選べ。解答番号は 6。

「山路やまみちを登りながら、こう考えた。

智に働けば角が立つ。情に棹さおさせば流される。意地を通せば窮屈だ。」

- 1 坊ぼっちゃん
- 2 明暗
- 3 草枕
- 4 虞美人草ぐびんそう
- 5 ころ

問四

傍線部3「そういう人は、なにもつくらず、なにも表現していないだろうか。必ずしもそうとは言えない」とあるが、どういうことか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

- 1 人と会おうとしないような人は、自分の行動によって自らの存在意義を多くの人々に向けて主張しようとしているということ。
- 2 自分から積極的に行動しないような人であっても、他人の要請がありさえすれば創造力を発揮することができるということ。
- 3 日々遊んでいるだけと思われているような人は、じつは集団のなかで目立たない形で趣味に打ち込み続けているということ。
- 4 何もしていないように見える人も、社会関係を構築して自分を表し、何もしない態度が行為として意味を持つということ。
- 5 家族以外に親しい人がいないような人にとっては、物理的な意味の場の構築は困難であり非常に時間がかかるということ。

問五

傍線部4「この二つの例」とあるが、何のための例か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

- 1 日常生活にある身近なものが文化に資することを示して、価値観の転換を促すための例。
- 2 無作為によって付加される芸術価値の妥当性について、専門家の論議を喚起するための例。
- 3 芸術作品においては、着眼点の特異性を追求すべきなのかを問題提起するための例。
- 4 無意味に見えるものに意味を持たせることで、表現そのものの意味を考えさせるための例。
- 5 世間的な価値観に惑わされずに、自分なりの価値観を持つことの重要性に気づかせるための例。

問六 空欄アに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号

は 9。

- 1 なんら特別のことではない
- 2 日常とはかけ離れていることだ
- 3 発想の転換を求めることだ
- 4 自然の流れにあらがうことだ
- 5 生きる意味を問うことではない

問七 傍線部5「知恵の喪失」とあるが、どういうことか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ

選べ。解答番号は 10。

- 1 知識や理論や技法を、日常生活で知覚したと結びつけることができず、十分に生かすことができないこと。
- 2 複雑化した世界に積極的に対処して行動していくための、知識や理論や技法が提示されていないこと。
- 3 日常生活の中で自己をとりまくものを十分に知覚できないがゆえに、知識や理論や技法の出発点を見失ったこと。
- 4 すぐれた知識や理論や技法と、現実の問題とをうまく噛み合わせる能力に欠けていて、問題を解決できないこと。
- 5 日常経験と、知識や理論や技法とが全く別個のものとして考えられ、知識や理論や技法の継承が行われないこと。

問八 空欄イ～オに入るものはどれか。最も適当な組み合わせを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- | | | | | | | | |
|-----|----------|---|----------|---|----------|---|----------|
| 1 イ | 日常経験 | ウ | 共通性と安定性 | エ | 社会や文化 | オ | 知識や理論や技法 |
| 2 イ | 考察方法 | ウ | 日常経験 | エ | 常識 | オ | 共通の意味場 |
| 3 イ | 知識や理論や技法 | ウ | 常識 | エ | 共通の意味場 | オ | 非日常性 |
| 4 イ | 社会や文化 | ウ | 自明性 | エ | 制作や創造や表現 | オ | 複雑化した世界 |
| 5 イ | 制作や創造や表現 | ウ | 知識や理論や技法 | エ | 芸術の分野 | オ | 社会や文化 |

問九 傍線部6「露呈」、8「既成」とあるが、これらの語を空欄に入れるのに適した文はどれか。最も適

当なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 12 13 。

6 露呈

12

- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 質疑応答を繰り返すなかで、彼の主張に矛盾点のあることが <input type="text"/> した。 | 話し合いを重ねて作成した改革案は、即効性を <input type="text"/> するものとなった。 | 県大会に向けて、部員全員で練習内容やスケジュールを <input type="text"/> する時間を設けた。 | 進路に関する情報を収集する作業を通して、自分の関心の方向が <input type="text"/> した。 | グループで徹底的に調査・検討したため、満足すべき研究結果が <input type="text"/> した。 |

8 既成

13

- | | | | | |
|---|--|---|--|--|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 報告を聞いて <input type="text"/> の印象を述べた後、疑問点を順次挙げていく。 | 地図上の点線で囲んだ部分は、今後 <input type="text"/> の対応がなされる予定だ。 | <input type="text"/> の議論の応酬を経て採決された案件について、速やかに取り組む。 | <input type="text"/> の概念にとられすぎると、物事の本質を見誤ることがある。 | 経済における <input type="text"/> の緩和を目指す、官民合同の委員会が発足した。 |

問十 傍線部7「宙吊りにされ、問われているのである」とあるが、どういうことか。最も適当なものを、

次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 14 。

1 鋭い観察眼を持たない芸術は、結局は大衆の共感も得られぬまま、むなしく消え去るものであることを人々に提示し、芸術の本質を示す自明性を問い直すべきだということ。

2 日常経験の自明性が前提でありながら、逆に常識の包含するわかりにくさによって、芸術の曖昧さが生じることを人々に認識させ、社会や文化のあり方を考えるべきだということ。

3 芸術でさえ、共通の日常経験や共通の意味の場に立つ知としての常識にとらわれていることを、人々に対してあらわにし、日常経験の自明性とは何かを検討すべきだということ。

4 芸術に携わるに当たって日常経験の自明性を信じられないために、芸術が永遠に孤独であることを強調し、芸術作品における通念について検証すべきだということ。

5 日常の経験とは別個に成り立つ芸術の場において、無意識のうちに知識や理論を駆使することの愚かさを人々の前にさらし、日常経験の自明性の限界の有無を議論すべきだということ。

問十一 次の一文を本文の中に入れるとしたら、【A】～【E】のうちのどこに入れるのがふさわしいか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□15。

いや、もともと、知識も理論も技法も私たちの一人ひとりによってよく使いこなされてはじめて、すぐれた知識、理論、技法になりうるのだから、厳密に言えば、およそ私たち一人ひとりの日常経験とまったく切りはなされた、それ自身としてすぐれた知識や理論や技法などというものは、どこにも存在しない。

- 1 【A】
2 【B】
3 【C】
4 【D】
5 【E】

問十二 本文の内容と合致するものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□16。

- 1 人間は、生きるうえで必ず、芸術や職業によって、なにかをつくり出したり自己を表現したりしようとするものである。
- 2 知識や理論や技法が広い範囲に有効性を持つようにするためには、常識と日常経験としての知を分けて考える必要がある。
- 3 常識とは共通の日常経験の上に立った知をもとに、一定の社会や文化のなかで自明になった知を強調したものである。
- 4 デュシャンとケージの企ては、日常経験の自明性が疑問視される現代社会だからこそ可能になったものである。
- 5 知識や理論は、それらを支える感覚や知覚や無意識の思い込みを含むということを前提にして問いなおすべきである。

【選択問題】現代文

※国文学科に出席している場合（国文学科を併願している場合も含む）は、(二)ではなく、16ページからの(三)を解答すること

※この問題を解答する受験生は、マークシートの「(二)現代文」にマークの上、解答すること

(二) 次の文章を読んで、後の問い（問一～十）に答えよ。

今、環境問題についてさかんに騒いでいるのは、すべて先進国の人間たちである。彼らは自分たちが衣食住に困らないからこそ、野生生物を守ろうといえるのであり、またそこにシンパシーを感じる人も出てくる。ところが、アフリカで飢餓に苦しんでいる人に、「木を切るな」「野生動物を食べるな」といっても、「木を切らなければ燃料がない」「動物を食べなければ死んでしまう」といわれればどうしようもない。飢えている人にとっては、環境問題など知ったことではないというのは当然であろう。

このように考えると、¹環境問題とは生物学上の問題というよりも、社会のグローバルな経済システムや政治システムに絡んでくる問題なのである。アメリカの生態学者の間では、昔からよくいわれることだが、結局、環境を考えるうえで一番の問題は人口問題である。これは日本ではあまり語られない。「人口が減ったために年金負担者が減って困る」などといわれているが、人口が減って困るとはヘンな理屈である。グローバルに考えると、同じ資源があれば人口が少ないほうが一人当たりのゆとりは大きい。人口が多くなると困るといえるのは、社会システムがどこかおかしいというほかはない。

今の日本は、「少子化はいけない」といつているわりに、就職難^{（注）}でどこにも就職できずに困っている学生が大勢いる。若い世代に職を与えられないようなシステムで、少子化が困ると叫ぶのはどこかおかしい。

それでも、日本には飢えて死ぬような人はあまりいない。しかし、アフリカやアフリカの一部の国では、実際に飢えて死んでいく人がいる。まずはいかにして人口をある程度まで減らし、どうやってすべての人たちにうまく衣食住が行き渡るような世界を作るかを考えなければならない。

世界の人口が六十億^{（注）}というのはどう考えても多過ぎる。農耕文化がなかった頃、つまり一万年以上前の地球の人口は、数百万人から一千万人に満たないレベルだったといわれている。現在でも、ちょうど一万年²前と同じレベルの狩猟採集生活をしている人たちの記録を見ると、寿命は短くても生態系の中で非常に優雅な暮らし³をしているようだ。

狩猟採集民は、一日に三時間ほどしか働かないらしい。山の中に食物はいくらでもあるので、人口が一定以上増えなければ、必要最小限のものだけを取れば事足りる。採集に二時間、調理に一時間程度の時間があれば充分で、あとはやることがないからごろごろして遊んでいる。雨が降れば仕事もしない。一日十時間以上も働かされるような現代のサラリーマンに比べれば、はるかに優雅で理想的な生活である。そのような生活がなぜできたのかといえ、それは人口が少ないからである。農耕がなければ生態系の収容力以上の人口は養えない。

ところが、農耕という文化が起こって食糧が増えはじめると、人口も増加しはじめた。生産性を拡大するために人手が必要になり、人口を増やすためには食物が必要となる。新しい農地ができれば食物が増え、その結果、人口がさらに増える。このように農耕が始まって以来、地球の人口はあつという間に増加していった。

人口が増えれば、環境が破壊されるのは当然である。北アメリカに人間が渡ったのは今から約一万二千年

ぐらい前、その後、南アメリカにも侵入し、約二千年ぐらいで南アメリカの末端まで行ったといわれている。その間に、アメリカの野生動物は凄まじい勢いで絶滅した。人間が自分の生存圏を拡大したために、野生動物とキョウウ合^aして彼らを殺してしまったのである。そういう意味では、人間がいる限り、野生動物との共存はなかなか難しいが、その難しさの根本には、やはり人口増加がある。人口が増え、野生動物が棲息^{せいそく}していた森を畑にしたり牧場にしたりすれば、野生動物は駆逐される。

西洋人は、「野生動物を食べることはいけないが、人間が飼育しているウシを食べたりヒツジを食べたりするのはいい」とよくいう。³これは本質的にはおかしい。本来は、野生動物の個体数回復の範囲内で野生動物を食べるのが一番いいに決まっている。野生動物が棲^すんでいた場所を潰して牧場を作り、ヒツジやウシを飼育して食べているというのは結果的に野生動物を絶滅させていることと同じだ。

①、野生動物を食べる人間が生活するためには、六十億という人口は多過ぎる。せいぜい六億ぐらいになれば、地球環境と人間は、うまく調和を保って生きることができよう。⁴②、衣食住が足りて、なおかつ環境を守っていくとするならば、人口を抑えることが大切なのである。

今、バイオテクノロジーを駆使して、とにかく収量のいい作物を数多く作らないことには、地球の人口が百億になった時にみな飢えて死んでしまうと主張している人がいる。^③、収量が多い作物を作れば作るほど、そのぶん人口も増えるため、いつまで経^たっても人口増加と食物増加のいたちごっこが続く。ある程度人口を抑える努力をしないと、環境問題は永遠に解決しない。

⁵これは大変面倒な問題である。^④、日本国内だけというミクロ（ジャパンローカル）で見ると、もう少し人口は多いほうがいいと思う人たちがおり、それはそれで合理的な考え方でもある。しかし、世界全体の生態系のマクロ合理性を考えると、人口はこれ以上増やさずむしろ減らしたほうがいいということになる。しかし、ミクロ合理性を考えると、自分の国の人口はあまり減らしたくない。ここに、ミクロ合理性とマクロ合理性とが背反^{III}するという問題が生じており、この問題こそが環境問題の根^bカンにある。

環境問題とは、人類がミクロ合理性を追求した結果、マクロ合理性が成りゆかなくなったという問題である。自分の食物が少しでも多い方がいい、自分の家系もより多い方がいい、自分の遺伝子もより多く残したいと万人が思っ^ててそれを行えば、地球環境というマクロで見ると不合理にならざるを得ない。

生物は、オートポイエティックなシステム^(注3)を開発した。しかし、それはみなミクロ合理性を追求するようなシステムに収斂^{しゅうれん}しており、⁶進化の過程でマクロ合理性を追求するシステムを開発するような生物はいなかった。何の束縛もなければ、生物はただひたすらミクロ合理性を追求し続けるのである。では、そのミクロ合理性は何によって止^c止されるのだろうか。それを止めるのはマクロ合理性ではなく、自然環境からのしっぺ返しである。餌が不足したり、環境が大激変することなどにより、数が減ったり、絶滅したりするのである。

人類もミクロ合理性を限りなく追求していけば、環境はどんどん悪化し、ある時クラッシュを起こして人口が十分の一ぐらいに減るだろう。生物としてはそれでいいのかもしれないが、それが嫌なのであれば、マクロ合理性をどこかで構築しなければならぬ。

京都議定書をはじめ、今、環境問題に対して何とか世界レベルのマクロ合理性を構築しようという努力がなされているが、それはなかなか難しいことではないか、と私は思う。その問題の一番の根底に、人口問題があるという認識がない限り、炭酸ガスを増やさない努力をしたところで無駄であろう。人ひとりが生きるために最低限必要な燃料や食物の量は決まっている。どんな手段をコウ^dじたところで、人口自体が減らなければ、自然環境に対する負^e力は減らしようがない。

そういう意味では、人口がどんどん増加すれば、これから実に変な世の中になるのかもしれない。百年後の地球を考えた時に、先ほどのクマムシのように長生きしても、あまりいいことはないという気もしてくる。

環境問題は今や重要な政治的アイテムであり、ビジネスチャンスでもあるわけだが、だからといって人類が環境問題を解決できるかどうかはそれとは別問題なのである。

（池田清彦『初歩から学ぶ生物学』による）

（注） 1 就職難——この文章が発表された二〇〇三年時点での社会問題。

2 世界の人口が六十億——二〇〇三年時点での人口。二〇二三年の世界人口は約八十億人。

3 オートポイエティックなシステム——ここでは、「（生物が）内と外との境界を次々と変えながら自分自身が変わっていくシステム」のこと。

問一 傍線部 a～e の漢字と同じ漢字を含むものはどれか。次の各群の 1～5 のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 17 ～ 21。

a キヨウ合

- 5 4 3 2 1
- 安楽な生活をキヨウ受する
卑劣なキヨウ迫には屈しない
明キヨウ止水の心で臨む
自分のキヨウ量を恥じる
陸上キヨウ技の大会が開かれる

b 根カン

- 5 4 3 2 1
- 彼の絵は圧カンの出来だった
優勝の栄カンに輝く
宴会のカン事を務める
カン梶の目を光らせる
勇カンな戦いぶりを見せた

c ソ止

- 5 4 3 2 1
- 敵をソ撃する
発展をソ害する
ソ税を課す
ソ訟を起こす
適切なソ置をとる

d コウじた

- 5 4 3 2 1
- クラス対コウリレー
町のコウ例行事
平コウ感覚が大事だ
大学のコウ堂に集まる
大会記録をコウ新する

e 負カ

- 5 4 3 2 1
- 商品を出カする
百人集まるとカ定する
カ烈をきわめた戦い
好きな教カは美術だ
カ幣の価値が上がる

問二 波線部Ⅰ「シンパシー」、Ⅱ「いたちごっこ」、Ⅲ「背反する」の本文中での意味はどれか。最も適当

なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は□22□、□24□。

Ⅰ シンパシー

□22□

- | | | | | |
|----|----|----|----|----|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 愛情 | 葛藤 | 疑問 | 反感 | 共感 |

Ⅱ いたちごっこ

□23□

- | | | | | |
|---------|--------|-----------|------|------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 問題のすりかえ | その場しのぎ | 同じことの繰り返し | 権力争い | 嫌がらせ |

Ⅲ 背反する

□24□

- | | | | | |
|---------|-------|-------|---------|---------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 互いに食い違う | 効果を失う | 危機に陥る | 存在を認め合う | 同じものになる |

問三

傍線部1「環境問題とは生物学上の問題というよりも、社会のグローバルな経済システムや政治システムに絡んでくる問題なのである」とはということか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□25□。

1 環境問題は、生物学と経済や政治の問題とが密接に関わり合う複雑な様相を呈するものだという
こと。

2 環境問題の解決に必要なのは、野生生物の保護ではなくグローバルな見地から生物学を動かす力
だということ。

3 環境問題を緊急の課題とするのは先進国の経済・政治の専門家であり、開発途上国では既に対処
しているということ。

4 環境問題は人口問題と直結しており、人口問題は経済や政治のあり方と大きく関わっているとい
うこと。

5 環境問題に対して経済や政治の側面から解決を図るためには、生物学によるよりもグローバル化
が不可欠だということ。

問四 傍線部2「優雅な暮らし」の具体的な内容として該当しないものはどれか。最も適当なものを、次の

1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 26 。

- 1 一日に三時間ほどしか働かず済む暮らし。
- 2 必要最小限のものだけを得られれば生きていける暮らし。
- 3 やることのない多くの時間は遊んでいられる暮らし。
- 4 雨が降れば仕事をしないでいられる暮らし。
- 5 農耕に従事する人数が十分に足りている暮らし。

問五 傍線部3「これは本質的にはおかしい」とあるが、なぜ「おかしい」と言うのか。最も適当なものを、

次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 27 。

- 1 個体数回復の範囲内ならば問題のない野生動物は食べずに、人為的にウシやヒツジを増やしているから。
- 2 食べる目的でウシやヒツジを飼育することが、結果的に野生動物を絶滅に追い込むことにつながるから。
- 3 人間によるウシやヒツジの飼育形態が、本来その場所にいるべき野生動物を他へと追いやることになるから。
- 4 人間の都合でウシやヒツジから野生の本能を奪っているのに、それを野生動物の代わりに食べているから。
- 5 ウシやヒツジを食べ続けていれば、野生動物を食べなくても個体数回復の限界を超えてしまうことになるから。

問六 空欄①～④に入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～8のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

ただし、同じ番号を二度以上使用してはならない。解答番号は① 28 、② 29 、③ 30 、④ 31 。

- 1 しかし
- 2 つまり
- 3 たとえば
- 4 では
- 5 いずれにせよ
- 6 あるいは
- 7 すると
- 8 そこで

問七 傍線部4「調和」の表す意味とは反対の意味を含む四字熟語はどれか。最も適当なものを、次の1～

5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 離合集散
- 2 厳正中立
- 3 不協和音
- 4 付和雷同
- 5 和洋折衷

問八 傍線部5「これは大変面倒な問題である」とあるが、どういう点が「大変面倒」なのか。最も適当な

ものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 ミクロ合理性における問題点が、マクロ合理性の追求においては役立つことになる点。
- 2 マクロ合理性の構築に必要な努力が、人口の増加を加速させる結果となる点。
- 3 ミクロ合理性による考え方では良いといえる状態が、地球環境を害することになる点。
- 4 ミクロ合理性に合致する施策が、地球環境への影響をも緩和することになる点。
- 5 マクロ合理性追求のシステムにとって不都合な事柄が、地球環境では優先されるという点。

問九 傍線部6「生物はただひたすらミクロ合理性を追求し続ける」とあるが、その具体例として最も適当

なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 収量のいい作物をひたすら作り続ける。
- 2 自分の食物が不足しないよう余分に確保する。
- 3 マクロ合理性を否定し地球環境を破壊する。
- 4 自分の子孫を残すため地球環境を守ろうとする。
- 5 人口を減らして自分の食物を増やそうとする。

問十 本文の内容と合致するものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 35。

- 1 環境を考えるうえで一番の問題が人口問題であることは先進国だけの認識であるため、その認識を全世界で共有するには飢餓に苦しむ国々の実情に沿った解決策の提示から始めるべきだ。
- 2 六十億の人々すべての衣食住が足りてなおかつ環境を守るには、グローバルな視点で社会システムの不備を修正し、経済の全世界的な発展を目指すことが求められる。
- 3 マクロ合理性とミクロ合理性の両立は難しいが、環境の悪化や人口の激減といった事態を回避しようとするのであればマクロ合理性についての人類の合意が必要である。
- 4 少子化を防ぐためには収量のいい作物を数多く作り続けるとともに家畜と野生動物の数を調整する必要がある、それには野生動物との共存による人間の生存圏の拡大が急務である。
- 5 環境問題を政治的問題やビジネスチャンスとしてとらえ直して社会システムをグローバル化できるのであれば、ミクロ合理性の追求によって人口問題を解決に導くことも可能である。

【選択問題】 古文

※国文学科に出願している場合（国文学科を併願している場合も含む）は、(二)ではなく、必ずこの問題を解答すること

※この問題を解答する受験生は、マークシートの「(三)古文」にマークの上、解答すること

(三) 次の文章は『源氏物語』の一節である。光源氏は夕顔の咲く家に住む女と出会い、自分の素性を隠しながら通う。女も源氏の正体を知らないまま逢いつづける。仲秋の夜、源氏は女の家に宿り、ともに朝を迎えた。隣家からは騒々しく人々の声や物音が聞こえてくる。以下の文章を読んで、後の問い（問一～十三）に答えよ。

いとあはれなるおのがじしの営みに起き出でて、そそめき騒ぐもほどなきを、女いと恥づかしく思ひたり。艶だち気色ばまむ人は、消えも入りぬべき住まひのさまなめりかし。⁽ⁱ⁾されど、のどかに、つらきもうきもか^aたはらい^bたきことも思ひ入れたるさまならで、わがもてなしありさまはいとあてはかに子めかしくて、またなく^bらうがはしき隣の用意なさを、いかなることとも聞き知りたるさまならねば、なかなか恥ぢかかやかんよりは罪ゆるされてぞ見えける。

こほこほと鳴神よりもおどろおどろしく踏みとどろかす、唐臼の音も枕上とおぼゆる、あな耳かしがましとこれにぞ思さるる。何の響きとも聞き入れたまはず、いとあやしうめざましき音なひとのみ聞きたまふ。くだくだしきことのみ多かり。白妙の衣うつ砧の音も、かすかにこなたかなた聞きわたされ、空とぶ雁の声、とり集めて忍びがたきこと多かり。

端近き御座所なりければ、遣戸を引き開けてもろともに見出だしたまふ。ほどなき庭に、されたる呉竹、前栽の露はなほかかる所も同じごときらめきたり。虫の声々乱りがはしく、壁の中のきりぎりすだに、間遠に聞きならひたまへる御耳にさし当てたるやうに鳴き乱るるを、^cなかなかさま変へて思さるるも、御心ざしひとつの浅からぬによろづの罪ゆるさるるなめりかし。

白き^{あはせ}裕、薄色のなよかなるを重ねて、はなやかならぬ姿いとらうたげにあえかなる心地して、そことりたててすぐれたることもなければ、細やかにたをたとして、ものうち言ひたるけはひ、あな心苦し、とただいと^dらうたく見ゆ。心ばみたる方をすこし添へたらばと見たまひながら、なほうちとけて見まほしく思さるれば、

(源氏) 「いざ、ただこのわたり近き所に心やすくて明かさむ。^アかくてのみはいと苦しかりけり」
とのたまへば、

(女) 「いかでか。にはかならん」

イ
いとおいらかに言ひてゐたり。この世のみならぬ契りなどまで頼めたまふに、うちとくる心ばへなどあやしく様変りて、世馴れたる人とおぼえねば、人の思はむところもえ憚りたまはで、右近^{注2}を召し出でて、隨身を召させたまひて、御車ひき入れさせたまふ。このある人々もかかる御心ざしのおろかならぬを見知れば、おぼめかしながら頼みかけ聞こえたり。

(…中略…)

いさよふ月に、ゆくりなくあくがれんことを女は思ひやすらひ、とかくのたまふほど、にはかに雲がくれて、明けゆく空いとをかし。はしたなきほどにならぬさきにと、例の急ぎ出でたまひて、軽らかにうち乗せたまへれば、右近ぞ乗りぬる。そのわたり近きなにがしの院におはしまし着きて、預り^{注3}召し出づるほど、荒れたる門の忍ぶ草茂りて見上げられたる、たとしへなく木暗し。霧も深く露けきに、簾をさへ上げたまへれば、御袖もいたく濡れにけり。

(源氏)

「まだかやうなることをならはざりつるを、心づくしなることにもありけるかな。」

いにしへもかくやは人のまどひけんわがまだ知らぬしののめの道
ならひたまへりや」

とのたまふ。女恥ぢらひて、

(女)

「^エ山の端の心もしらでゆく月はうはのそらにて影や絶えなむ

心細く」

とて、もの恐ろしうすごげに思ひたれば、かのさし集ひたる住まひのならひならんとをかしと思す。

御車入れさせて、西の対に御座などよそふほど、高欄^{かうらん}に御車ひきかけて立ちたまへり。右近、艶なる心地して、来し方のことなども人知れず思ひ出でけり。預り^{注4}いみじく経営^{けいめい}し歩く気色に、この御ありさま知り^オはてぬ。

ほのぼのと物見ゆるほどに下りたまひぬめり。かりそめなれどきよげにしつらひたり。

(管理人)

「御供に人もさぶらはざりけり。不便^eなるわざかな」

とて、睦ましき下家司^{しもけいし}にて殿にも仕うまつる者なりければ、参り寄りて、

(管理人)

「さるべき人召すべきにや」

など申さすれど、

(源氏)

「ことさらに人來まじき隠れ処^が求めたるなり。さらに心より外に漏らすな」^カ
と口固めさせたまふ。

注1 子めかしくて——女のとけない様。

注2 右近——女の侍女。

注3 預り——「なにがしの院」の管理人。

注4 いみじく経営し歩く——源氏の世話に忙しく奔走する。

注5 睦ましき下家司にて殿にも仕うまつる者——管理人は源氏と親しい間柄の下級家司で、左大臣家にもお仕えしている。

問一 波線部 a～e の解釈として、最も適当なものを、次の 1～5 のうちから、それぞれ一つ選べ。解答番号は

17

 ～

21

 。

a かたはらいたき

17

5	4	3	2	1
騒々しい	腹立たしい	きまりが悪い	興味深い	体調が悪い

b らうがはしき

18

5	4	3	2	1
可愛らしい	やかましい	寂しい	珍しい	親しい

c なかなか

19

5	4	3	2	1
ほとんど	ひたすら	ことごとく	かえって	なんとなく

d らうたく

20

5	4	3	2	1
趣深く	うるさく	いじらしく	煩わしく	ふさわしく

e 不便なる

21

5	4	3	2	1
不器用な	不思議な	不都合な	不勉強な	不統一な

問二 二重傍線部(i)「なめり」の文法的説明として、最も適當なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。
解答番号は 22。

- 1 推定の助動詞「ぬ」の連体形撥音便無表記＋完了の助動詞「めり」の終止形で、「きっと」であるという意味を表す。
- 2 推定の助動詞「ぬ」の未然形＋推定の助動詞「めり」の終止形で、「～かもしれない」という意味を表す。
- 3 伝聞を表す助動詞「なり」の連体形促音便無表記＋完了の助動詞「り」の終止形で、「～と聞いている」という意味を表す。
- 4 断定の助動詞「ぬ」の未然形＋完了の助動詞「り」の終止形で、「必ず～だ」という意味を表す。
- 5 断定の助動詞「なり」の連体形撥音便無表記＋推定の助動詞「めり」の終止形で、「～であるようだ」という意味を表す。

問三 二重傍線部(ii)「かのさし集ひたる住まひのならひならん」とをかしく思す」の解釈として、最も適當なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 23。

- 1 「思す」は「思ふ」の謙讓語。「源氏が不安がっている理由は、住み慣れない荒れ果てた隠れ処に私を連れてきてしまったためだろうと、女は愛おしく思い申し上げた」と解釈するのがよい。
- 2 「思す」は「思ふ」の尊敬語。「女が不安がっている理由は、住み慣れない荒れた隠れ処に不本意にも連れてこられたためだろうかと、源氏はとても悲しく思いになった」と解釈するのがよい。
- 3 「思す」は「思ふ」の謙讓語。「源氏がこのような和歌を贈ってくる理由は、庶民の家に住んでいる私を軽んじているためだと、女はとても腹立たしく思い申し上げた」と解釈するのがよい。
- 4 「思す」は「思ふ」の謙讓語。「私が不安に思う理由は、荒れ果てた庶民の家に住むことに私が慣れてしまったためだろうかと、女は寂しく思い申し上げた」と解釈するのがよい。
- 5 「思す」は「思ふ」の尊敬語。「女が不安がっている理由は、家が立ち並ぶなかで暮らすことに慣れているせいだろうと、源氏はおもしろく思いになった」と解釈するのがよい。

問四 傍線部ア「かくてのみはいと苦しかりけり」とあるが、源氏はなにがつらいと言っていると考えられるか、最も適當なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 24。

- 1 落ち着かない所で逢うこと。
- 2 女が源氏の思いを受け入れないこと。
- 3 源氏が女に正体を明かさないこと。
- 4 女が庶民として暮らし続けること。
- 5 仏道修行を怠り罪が重なること。

問五

傍線部イ「この世のみならぬ契りなどまで頼めたまふ」の解釈として、最も適當なものを、次の1～

5のうちから一つ選べ。解答番号は 25。

- 1 現世だけでなく来世でも結ばれようという約束を信じるよう、女が源氏に申し上げる。
- 2 現世だけでなく来世でも結ばれようという源氏の約束を、女は頼みとしていらっしやる。
- 3 現世だけでなく来世でも結ばれようという女の約束を、源氏は信頼なさる。
- 4 現世だけでなく来世でも結ばれようという約束まで、源氏は女に頼みに思わせなさる。
- 5 現世だけでなく来世でも結ばれようというふたりの約束を、源氏は頼みとしていらっしやる。

問六

傍線部ウ「かやうなること」とあるが、これは具体的にはどういうことか。最も適當なものを、次の

1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 26。

- 1 恋心をいくら伝えても応じてくれない女性のことを諦めてしまうこと。
- 2 袖が濡れることも構わずに自ら簾をあげる無作法な振る舞いをする事。
- 3 庶民の生活音を間近で聞きながら朝を迎えること。
- 4 女性の邸宅から女性を連れ出し、自分の隠れ処へ共に行くこと。
- 5 月がにわか雲に隠れ、しだいに明けていく空に感動すること。

問七

傍線部エ「山の端の心もしらでゆく月のはのそらにて影や絶えなむ」の和歌の解釈として、最も適

當なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 27。

- 1 自分たちを山の稜線に、隠れ処を月になぞらえて、あまりに荒れた場所だからなにか悪いことが起きるに違いない、私たちもこの世から消えてしまう、と絶望感を訴える歌。
- 2 現在を山の稜線に、未来を月になぞらえて、現在の状況がわからないままなので、このままでは未来もきつと消え失せてしまうはずだ、と未来を憂う歌。
- 3 時間を山の稜線に、恋心を月になぞらえて、時間が経てばこの恋心もきつと途中で消えてしまうに違いない、と恋の儚さを詠む歌。
- 4 現在の女の心情を山の稜線に、将来の女の心情を月になぞらえて、今の私の気持ちは私自身も分からないので、将来の自分の気持ちなど分からない、と将来を不安視する歌。
- 5 源氏を山の稜線に、女を月になぞらえて、あなたの気持ちがわからないまま連れ出されていく私は、正気をなくして消え失せてしまうかもしれない、と不安を訴える歌。

問八 傍線部オ「この御ありさま」とあるが、これは具体的にはどういうことか。最も適当なものを、次の

1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 源氏が高貴な方であること
- 2 隠れ処の趣深さ
- 3 二人の将来
- 4 源氏の本心
- 5 女のためらう気持ち

問九 傍線部力「さらに心より外に漏らすな」の解釈として、最も適当なものを、次の1～5のうちから一

つ選べ。解答番号は 。

- 1 私がこのような女と恋をしていることは秘密にしてください、という懇願。
- 2 私たちがここにいることを絶対に他言するな、という命令。
- 3 人を呼んで身の回りの世話をしてほしい、という依頼。
- 4 あなたの気持ちを私に言うことをやめてください、という希望。
- 5 あなたの秘密はこのまま秘密にしておいたほうがよい、という提案。

問十 本文の内容と合致しないものはどれか。次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 源氏は、間近で鳴きたてる虫の音を聞き慣れないが、かえってその音もおもしろいと感じた。
- 2 起き出して立ち騒ぐ庶民の家々の音を源氏に聞かれることに、女は恥ずかしさを感じていた。
- 3 女の様子から、隣家の騒音を源氏に聞かれることを女は恥ずかしく思っていないと源氏は考えた。
- 4 自邸から隠れ処へ行くことを源氏から提案され、女は嬉しさのあまりいそいそと車に乗り込んだ。
- 5 あどけない女の様子を源氏は好ましく感じつつも、もう少し気取っている面があれば良いのにも思った。

問十一 本文の内容と合致するものはどれか。次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 隠れ処に着いた後、女は恐ろしく気味悪く感じ、我が身の不幸を思って泣き続けていた。
- 2 思いがけず隠れ処へ行くことにためらう女を、源氏はあれこれと説得して言い含めた。
- 3 源氏は噂になることを避けるため、明るくなる前に急いで女だけを連れて隠れ処へ移動した。
- 4 源氏の隠れ処は、高貴な方にふさわしく、全く荒れることなく美しくしつらえていた。
- 5 管理人からの助言を受けて、源氏は身の回りの世話をする人々を私邸から呼び寄せた。

問十二 『源氏物語』 より前に成立した文学作品として、最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。 解答番号は 。

- 1 『古今和歌集』
- 2 『風姿花伝』
- 3 『堤中納言物語』
- 4 『大鏡』
- 5 『平家物語』

問十三 『源氏物語』 の作者と同時期に生存していない人物として、最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。 解答番号は 。

- 1 阿仏尼
- 2 清少納言
- 3 和泉式部
- 4 藤原公任
- 5 藤原道長